

10月定例記者会見要旨

最初の情報は防災に関連した話題となります。秋の火災予防運動を前に実施する「女性消防団員による防火・防災教室」の情報です。

近年、自然災害が多発し、その被害は多様化・複雑化しており、成人だけでなく幼年・少年世代など、災害時に配慮を要する方たちへの防火・防災教育の重要性が高まっています。

こうしたことから本市では、市内の保育園・幼稚園等に通うこども達に、少しでも防災に興味を持ってもらおうと、昨年度から女性消防団員による防火・防災教育を実施しています。

今年度は7月に第1回を開催し、今回で3回目の教室になります。期日は10月30日で、女性消防団員5名が市内小通幸谷町のことり保育園に伺います。当日は、子どもたちが楽しみながら防災について学べるよう、紙芝居やクイズを交えるなど、工夫を凝らした内容とする予定です。

なお本日は、女性消防団員の皆さんにお越しいただいております。情報の詳細につきましては、のちほど同消防団の皆さんからお話しいただけると伺っておりますので、よろしく申し上げます。

続きまして、教育の日推進事業についての情報です。

本市では、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもたちを育成するため、毎年11月を教育月間、11月5日の「いい子の日」を教育の日として定め、期間中に様々な教育に関する取り組みを行っています。

今回は、教育の日のメイン事業の一つで11月30日、市文化会館で開催いたします「たつのこ未来トーク」についてのご案内です。

これは、市内の中学・高校に通う生徒たちが龍ヶ崎の未来について熱く語り合うもので、今年度新たに行う取り組みとなります。

当日は2部構成となっており、市内の中学・高校10校の生徒が地域貢献活動をテーマに実践発表や意見交換を行います。なお、イベントの運営やパネラーなどを各校の代表生徒約30名が務め、自分たちの手でイベントを盛り上げます。

第1部は「中学校・高等学校の地域貢献活動実践発表」で、地域をより良くするためにしている各校の取り組みを、スライド等を使ってそれぞれが工夫を凝らして発表します。

第2部は「私たちにできる地域貢献活動～10年後の龍ヶ崎を考える～」をテーマとしたパネルディスカッションで、パネラーとなる中高生6名は「龍ヶ崎の未来のために私たちができること」について、それぞれの意見を自由に発表します。生徒たちの発表後には、一般の来場者にも参加いただいて、壇上のパネラーとの意見交換を通し、いっしょに龍ヶ崎の未来について考えていただく予定です。

また、今年度はこのほかの教育の日推進事業として、親子で「食」について話し合うきっかけとしてもらう「親子でつくる給食献立」や、普段は言いづらい家族への感謝の気持ちを「メッセージ」として伝える「家族へのメッセージ」の事業も行っています。

続きまして、バーチャルリアリティ・VRを利用した『認知症サポーター養成講座』の開催についてです。

市では、昨年度より市内の小・中学校や高校の生徒を対象に、本講座を実施しており、児童・生徒向けの教材を使用したり、市職員が認知症の人に扮して寸劇を演じたりと、子どもたちに分かりやすく、認知症の人への接し方をリアルに実感してもらうような工夫をしています。

そして、今回は更にバーチャルリアリティ・VRを利用し、認知症の疑似体験を小学生に体感してもらいます。

期日は11月8日、対象は市立大宮小学校5年生24名で、バーチャルリアリティによる疑似体験により、認知症の症状のある人の視点に立ったストーリーを再現映像として見ることができ、認知症の人が見ている世界を仮想体感することができます。

小学生には、認知症の症状を自分ごととして体感することにより、認知症の人の気持ちをより理解してもらい、認知症の人への寄り添いのきっかけとなるよう期待しています。

なお、今回のバーチャルリアリティを利用した認知症サポーター養成講座は小学校では本県初の取組みとなります。